

# 市地域包括支援センターからのお知らせ

市地域包括支援センターは、高齢者の心身の健康や生活の安定のために必要な支援を行っています。  
次の通り、高齢者や認知症の人およびその家族を対象とした研修会やフォーラムなどを開催しますので、ぜひ参加してください。

## ◎高齢者の権利擁護研修会

高齢者が地域で安心して暮らせるよう、権利を守る制度や仕組みを学ぶ研修会です。

- 日時 2月23日(木)午後2時～4時
- 場所 国民宿舎サンホテル衣川荘
- 内容 ①講演「高齢者の金銭問題と権利擁護」加藤文郎氏(岩手銀河法律事務所) ②説明「奥州市の権利擁護相談の実際について」
- 参加料 無料
- 申し込み 不要
- 問い合わせ 本庁長寿社会課地域包括支援係(水沢地域包括支援センター ☎⑤5465)、各地域包括支援センター

## ◎認知症支援に関する本人のご意見を募集

認知症と診断された人を対象に、必要な支援についてのご意見や経験談などを募集します。いただいたご意見は、認知症に悩んでいる人のサポートや今後の支援に役立てます。短文であったり、誤字・脱字があっても大丈夫です。ご協力をお願いします。

- 対象 認知症の当事者本人 ※家族や友人など支援者の代筆も可
- 内容 ①医療・ケア・社会に対する意見や提言②認知症の診断前や診断後の自分の経験③楽しみ・生きがい・希望など
- 提出方法 郵送またはファクス
- 問い合わせ・提出先 水沢地域包括支援センター(☎⑤5465、☎⑤5466、☎023-0801、水沢区字横町2番地1)

## ◎認知症にやさしい地域づくりフォーラム

高齢化社会に伴い、認知症高齢者が増加する中、認知症になっても本人の意思が尊重され、住み慣れた地域で安心して暮らしていける地域にするにはどうしたらいいでしょうか。市民協働による地域づくりを皆で考えてみませんか。

- 日時 3月2日(木)午後1時半～4時
- 場所 市文化会館(Zホール)
- 内容 ①講演「地域で認知症の人と家族を支えるために」矢吹知之氏(認知症介護研究・研修仙台センター主任研修研究員) ②パネルディスカッション「認知症になっても安心して暮らせるまちづくりについて考える」コーディネーター＝阿部佐倉氏(さくらクリニック院長)、パネリスト＝佐藤一儀氏(民生児童委員)、佐々木裕氏(まえさわ苑指定居宅介護支援事業所長)、長谷川伸氏(市社会福祉協議会地域福祉課長)、水沢地域包括支援センター職員 ③奥州キャラバンメイト・スマイル<sup>2</sup>による寸劇、合唱
- 参加料 無料
- 申し込み 不要
- 問い合わせ 本庁長寿社会課地域包括支援係(水沢地域包括支援センター ☎⑤5465)、各地域包括支援センター

### 【各地域包括支援センターの連絡先】

- ・江刺地域包括支援センター ☎③2111内線166
- ・前沢地域包括支援センター ☎⑤2111内線271
- ・胆沢地域包括支援センター ☎④2977内線205
- ・衣川地域包括支援センター ☎⑤3111内線602

第14回シヨパン国際ピアノコンクールアジア大会が1月13日、神奈川県川崎市で開かれ、常盤小学校2年の岸田康平君が小学1・2年生部門で最高賞の金賞に輝きました。同コンクールの同部門には全国大会を通過した日本人99人が出場し、岸田君を含む6人が金賞を受賞。5歳からピアノを始めた岸田君は週2回のレッスンに加え、大会前はほぼ毎日ピアノ教室に通い特訓を重ねました。



ピアノコンクールで岸田君が見事金賞  
シヨパン国際ピアノコンクール  
アジア大会

# しらやま 白山地区振興会

- 代表者：会長 鈴木 秀悦ひでえつ
- 人口：1,566人（男744人／女822人）
- 世帯数：429世帯
- 拠点：白山地区センター  
（前沢区白山字古宿37番地3 ☎FAX⑤ 2938）

（平成24年12月31日現在）

# 結 ⑩ -ゆい-

～ 30の地区振興会による  
協働のまちづくり実践事例 ～

特色のある地区振興会の事業を紹介するこのコーナー。シリーズ10回目は、前沢区の白山地区振興会を紹介します。

白山地区は前沢区の北東に位置し、東を北上側が流れ、北は水沢区姉体町と接しています。地区内はほぼ平坦な地形で、水田などの耕作地が広がっています。

白山地区振興会は、旧前沢町時代の平成16年7月、区内各種団体の連携強化と総合的な振興発展に寄与する組織として設立しました。その後、23年4月に、従来の地区内6団体を専門部会とする現在の組織に改編しました。

専門部会といえ、たいていは「○○部」や「○○部会」という名称ですが、同振興会では従来通りの名称を使用しています。「名称を変えないのは、『今まで通り自分たちが中心になって頑張らなければ』という意識を持ってもらうため」と鈴木秀悦会長は言います。

白山地区振興会の専門部会は、①教育振興会②福祉活動推進協議会③防犯協会④体育会⑤交通安全母の会⑥公衆衛生組合——です。

この6つの専門部会の中でも、教育振興会の活動には特に力を入れています。世代を超えて子どもたちを守り、育てていくという気風がある同地区。北上川を舞台にした、特徴的な事業を紹介します。

## ■親子夏まつり

親子夏まつりは、北上川を使った一大イベントで、30回を数えます。白山小学校の児童と親、地区民など約150人が参加します。午前中は、いかだ作りに子どもたちが挑戦。大型タイヤチューブを浮かきにして、竹とベニア板でいかだ3基を組み立てます。大人の指導の下、自分たちで組み立てるのも楽しみの一つで、



いかだ組み立ての様子



いかだ遊びを楽しむ小学生

午後からはいかだ遊びです。3基のいかだに交代で乗り、大曲水辺広場公園の北側に到着します。いかだは大人が竿で操り、子どもたちは水遊び。大人たちが疲れると子どもたちが川に入り、バタ足でいかだを操ることもあります。北上川の楽しみ方を学ぶ一日となります。

## ■大曲の水辺川まつり

こちらにも北上川に親しむイベントで、10回を数えます。大人から子どもまで約200人が参加します。ちなみに、大曲とは地区内にある地名で、北上川にかかる橋の名称にもなっています。

イベントの一つは、北上川の眺めを楽しむもので、川舟やカヌー、水上バイクでの遊覧体験。普段は乗る機会の少ないものばかりで貴重な体験です。参加者は順番を待って、何度も楽しんでいました。

もう一つは、恒例となった川舟レースです。大曲水辺広場公園前の北上川に特設するコースで、ここから上流に向かってスタートし、150メートル先のブイを折り返してゴールするもの。1チーム8人編成で競います。昨年は、一般の部に6チーム、ファミリーの部に2チームが出場。気持ちを一つにしてパドルをこぐ様子は、まさに同地区の取り組みを象徴しているようでした。



川舟レースで懸命にこぐ参加者